

災害調査報告

2007 ソロモン諸島地震津波災害の被害と社会の対応

Damage and societal response after 2007 Earthquake Tsunami Disaster in Solomon Islands

○ 牧 紀男、鈴木伸吾、林 春男、河田恵昭

○ Norio MAKI, Shingo SUZUKI, Haruo HAYASHI, Yoshiaki KAWATA

On April 2, 2007(local time at epicenter), massive earthquake of the magnitude of 8.1 occurred at the western part of Solomon Islands. The devastative tsunami due to the earthquake struck numerous islands, and slope failures occurred at many place near the epicenter. The tsunami and slope failures killed 52 people, affected more than 300 villages. 24,000 displaced people had been living at inland higher place being afraid of tsunamis for 2 months. This paper summarizes the societal aspects of the disaster such as responses and recovery processes reporting the result of field survey.

1. はじめに

2007年4月2日午前7時40分頃(現地時間)、ソロモン諸島国においてマグニチュード8.1の巨大地震が発生した(USGS, 2007) 1)。震源は同国ウェスタン州(Western Province)の州都であるギゾ(Gizo)から南南東の沖合45km、深さ10kmの地点で、この地震により同州のランonga(Ranonga)島西海岸において多数の斜面崩壊が発生し、また地震に伴う津波が同州に属する島々の沿岸部と同州の北部に位置するチョイソル(Choiseul)州チョイソル島の南岸部に来襲した。この斜面崩壊と津波により、両州合わせて52名の死者が発生し、倒壊・流失家屋3,150棟、被災世帯数4,276世帯、被災人口24,059人という大きな被害が発生した(Government of Solomon Islands, 2007)。

本稿では、ソロモン諸島国ウェスタン州で発生した地震津波災害における1)被害の社会的様相、2)災害対応、3)復旧・復興対策の現状と課題などの災害過程の社会科学的側面に重点を置いて、ソロモン諸島国政府、ウェスタン州政府、被災した村落の避難キャンプの代表者などに対して実施したインタビュー調査の結果について報告する。

現地調査は、牧紀男、鈴木伸吾、ならびに古澤拓郎(東京大学国際連携本部ASNET推進室)により2007年5月25日から30日の5日間にかけて実施された。

2. 被害の社会的様相

今回の津波で大きな被害が被ったのは、1)キリバス系移民、2)政府職員、であり、新たに今

回の被災地域に「移住」してきた人々であった。この地域は過去には首刈りの風習があった事、海岸部に平地が少ない事から伝統的には海岸部には居住しておらず、今回津波による被害を受けた地域はいずれも新たにこの地域に入ってきた人々の集落であった。

3. 災害対応と復旧・復興の課題

被害の規模がそれほど大きく無かった事もあり、被害の全体像の把握は災害発生から2日程度で行われ、人的被害の把握も20日程度で完了した。

被災した人々は、現在、津波を恐れ内陸部に新たに設置したキャンプで生活を行っている。学校教育も仮設の学校が建設され、発災から2週間程度で再開されている。どこに集落を再建するのかが、今後の課題となっている。Simbo島、Ranonga島(津波ではなく地盤災害)においては高台に集落を移転することが決定され、現在、新たな住宅の建設が行われている。集落の再建について大きな問題を抱えているのはGizo島のキリバス系移民の集落である。1960年代にキリバスから移住してきた人々は、内陸部に自分たちの土地を持たないため、現在のキャンプは政府、民間の所有地を不法占拠して建設されている。津波により被災を恐れ、可能ならば内陸部に位置する現在のキャンプの場所で集落を再建したいという意向を持っているが、土地所有問題が解決されない限り、本格的な復興を行う事ができない。また、各集落のキリスト教の宗派もその集落の復興(社会的状況)を考える上で重要なファクターとなる。